

鵜殿通信2012年6月号

～夢・水辺を創る～ 鵜殿のヨシ原

鵜殿クラブ会報 通算162号

- ◆新名神高速道路 左の白い建物が上牧小学校. この右側（東側）が建設予定ルート（詳しくは1頁）建設で失うものは？



- ◆導水路水量は淀川水位に左右され天ヶ瀬ダムの影響大. 6月4～12日. 放流量200m³/秒超
左：5月23日、右：6月5日、導水路の中流の分水路（淀川側）の渡りが冠水した。



7月8日は放射線の勉強会と鵜殿散策を開催。新名神高速道路

「鵜殿通信」2012年6月号（平成24年6月14日発行、通算162号）

1. 鵜殿の活動

- ・6月19、26日、7月3、6、10、14日。その他の日。調査や観察やいろいろ行います
- ・7月8日（日）午前は鵜殿クラブ勉強会を行います。午後は鵜殿を観察します。

「放射線は知るのが一番 ～安全なもの、危険なもの、わからないもの～」

講師：鈴木慎悟さん（鵜殿クラブ会員）、事前に資料をご希望の方はメールかお電話下さい。

※追加日が有ることもあります。詳しくはお問合せ頂くかホームページをご覧ください。いずれも、

- ・時間：10時～15時頃
- ・集合：10時、淀川河川事務所山崎出張所（高槻市上牧町4-55-1）
- ※申込は3日前迄に必ずお願いします
- ・参加費：無料
- ・持ち物：飲み物多めに、弁当、雨具

・最寄り駅：阪急電鉄、京都線「上牧駅（かんまき）」徒歩15分、駅前にインパーキング有り。
電車の高架下を通り171号線を渡る。金光中学高校前の用水路に沿い淀川方向へ進むと堤防、堤防に突き当たったら左の道を上がる、堤防上の建物が「山崎出張所」※駐車場は有りません。

2. 新名神高速道路 鵜殿のヨシ原を横断する「八幡～高槻間」が着工

2012年4月20日に事業許可され事業に着手となりました。



図は高槻市の広報たかつき 2012年6月10日号より転載（鵜殿の場所は右図で淀川の文字の所）



- ## 3. 声明文「ひちりきのヨシを守るために」雅楽関係者、音楽史研究者有志から出されました。同封します。問合せ先：雅楽協議会 Tel 042-451-8898 Fax 042-451-8897

鵜殿クラブ(うどの) 〒569-0011 大阪府高槻市道鵜町4-12-5

・電話：090-3991-1646、072-660-6011

FAX：072-891-4751 ★会員を募集中、年会費 4,000円(会報印刷送料)

・メール：udono@ares.eonet.ne.jp

ウェブ <http://udono-yoshihara.com> (変わりました)

・会長：長屋昭義 顧問：小山弘道 事務局：谷岡寿和子 ・設立：1998年3月

鵜殿ヨシ原研究所 所長：小山弘道 連絡先は同上。参加者を募集中です

近畿大学生と魚類調査. 鵜殿では日常に生物の暮らしを感じます

1. 切り下げ地のヨシ刈り祭りのヨシ
現在は一昨年のようによく育っています。
昨年は淀川からの水が多すぎて不良。



2. 観察会の報告：魚類の調査

6月10日（日）タモ網や投網で4地点を調べました、淀川からの導水路や新川の生き物は？

講師：近畿大学大学院 農学研究科環境管理学. 辻野寿彦さん、川瀬成吾さん、農学部大学生皆8人

生物：新川（出張所前）コイ、フナ、タモロコ、モツゴ、アメリカザリガニ、イトトンボ等種々のヤゴ

導水路：オオクチバス、ニゴイ、フナ、カマツカ、オイカワ属の稚魚、ウシガエル卵、イシガメ

新川（下流、淀川に近い場所）ブルーギル、タイリクバラタナゴ、ナマズ、フナ、コイ、ニゴイ、モツゴ、タモロコ、ドジョウ、ドブシジミ、アカミミガメ（ヒル付き）、クサガメ、

スジエビ、ヌマエビの仲間、ハグロトンボのヤゴ、種々のヤゴ、カワニナ数種、フサモの仲間

切り下げ地（新川からの水路）ナマズ、モツゴ、コイ、フナ、カダヤシ、トノサマガエルの卵

コイ、フナ、タモロコ、オオクチバス、カマツカ、スジエビ、トンボのヤゴなど



連載123(鵜殿通信2012年5月号)に、「鵜殿のヨシ原」上空を新名神(第二名神)が通過することが決まった話を記しました。(日本経済新聞4月7日、京都新聞4月2日朝刊)

「鵜殿のヨシ原」に橋が建設されると、世界無形文化遺産に指定された「日本の雅楽」の主要な楽器「箏(ヒチリキ)」の音が消えるかもしれない。また、「鵜殿のヨシ原」で暮らす生き物たちが暮らしの場を失う心配があることも記しました。

日本史の教科書で学ぶ日本の歴史を変えた主要な出来事、新しい文化をもたらした渡来人。平安時代の石清水八幡宮。信長と延暦寺の戦いの場、比叡山。天下分け目と称される明智光秀と羽柴秀吉の戦いの場、天王山。近代では発明王エジソンが石清水八幡宮で採取した竹の繊維を白熱電球のフィラメントに用いたなど何世紀にも渡るいわゆる歴史的景観を淀川沿いの河川敷、鵜殿の堤防から今、一目で見ることが出来ます。

新名神については繰り返し書いているので、中には「分かった、分かった。しつこい。」と思う人が有るかと思いますが、60年近く生物学を教わり、学んできたものとしては鵜殿に暮らす生き物たちが被害を受ける事を知っているのに一言も発せず知らぬ顔は許されないと思うからです。

アフリカの象が、ライオンが絶滅の危機。40年前、マレーシアの原生林で見たトラの足跡。ホッキョクグマが絶滅しそうだと伝えるテレビの映像。テレビを見ながら、新聞記事を読みながら人は皆心配しています。しかしこれらは全て人間の経済活動の結果で生じたことです。人の暮らしと経済活動は切る事の出来ない、「人類」と云う生物群が他の生物群に負けないで生き延びていく方法として考え出されたものだと思いますが、その中には共存という考えはありません。栽培植物を食べに来る動物群、家畜を襲う動物群、耕作地に侵入する植物群を排除することに努力してきました。殺虫剤、除草剤の開発に努力してきました。そのお陰で、カやハエがいなくなりました。そのことを人は快適な暮らしと思っています。

このまま人類が増え続けると、植物は栽培植物と観賞用植物だけ、動物はペットしか生き延びることが出来なくなりそうです。今まで野生生物として区別してきた生物群は人が管理する囲いの中で暮らす、今世界各地で見られる国立公園の中で、それも人が描き、企画する生態系の図面の中で暮らすことになります。

人類が出現する前までは、動植物は各大陸の中でバランスが取れていました(恐らく)。氷河時代には動物、植物が移動したことは知られていますが、それ以外にはほとんど移動はなく、生物の体を作る物質がその地域にある量に限られていたからです。

生物の進化は地球の物流で説明することが出来ます。人が何故生まれたのか不思議ですが、地域限定の物質を他の地域に運ばせるために「生命」を創った何者かが仕組んだものだと思います。

私はそれを抽象的に「神様」と呼んでいます。

4年ほど前から、「神様は何故植物を創ったか」と題する話をしています。聴いてる人にはなかなか理解してもらえないのですが、原始生命体は水中で暮らし、溶解した水中の物質を利用していました。これでは物質の量に限度があります。そこで神様は眠っている物質、特に地下深くに有る物質を利用するために植物、樹木を創り、今に戻すことを考えたのです。

このことで何億年も前に出来た物質もいま利用することが出来る様になりました。何億年も前に出来た物質を根で吸収し、植物体を作り、今暮らす動物たちに食料として与えることが出来る様になったのです。しかし、これもすぐに地域限定になりました。また地域によっては量が不足する様になり、広域的に物質を運ぶものが必要になりました。そこで神様は人類を創りました。 — 3 —

その時、神様は人類に物を運ぶ道具を作る知恵を授けておいたのです。

人類に物を運ばせる、今日までの地球の歴史はこのことを物語っています。歴史に残る各地の文明は周辺から物を集めることで成り立ちました。しかし物を運ぶ手段が大きくなかったために減っています。さらに物欲によって人類に豊かさを与えようとした神様が、考えもしなかったのは人間の物の奪い合いでした。

その時点ではまだ地域限定で大陸間の移動はほとんどなかったのですが、水辺で暮らす人類は船を作ることに成功しました。このことで大陸間の物の移動が可能になりました。さらに鳥を見て空を飛ぶことに興味をもち、いろいろ工夫を重ねました。歴史的に見ると、実現出来るように神様が用意したのは人類の中の一人か二人、発明家は数えるほどしかいません（レオナルドダビンチはその例です）。大勢でやると混乱するだろうとの神様の配慮です。工夫、改良は大勢でやれるように仕組まれています。これで飛行機が出来、船も使って大陸間で大量の物の移動が出来るようになりました。しかし、運ぶ手段が出来ても物欲がないとモノは移動しません。物欲によってモノを移動させることを、人類は経済と名付けて正当化しています。この時から人類は、人間化したのです。人間は個です。最近「個人情報」を優先するので益々個化しています。

物流の方法が開発されたために、生産地と消費地が分かれました。人間が生きていくための基本は、食料です。工業製品は食べることが出来ないので、人間同士の信頼関係がないと生きていくことは出来ません。信頼関係が壊れると食料で経済制裁が行われます。よく見聞きします。

今、個への物流は自動車で行われています。道路で行われています。物流の活性化のためには、道路が必要と云われてきました。昭和30年代の物流は、鉄道でした。ほとんどが駅留めで受け取りは確かに不便でした。今、家まで届けてくれる自動車による宅配便は便利です。しかし道路建設でその地域に住む生き物たちが住処を失った話も数多く聞いています。道路建設はその地域に住む動植物にほとんど配慮しません。身近から動植物が消えたために、人間はペット以外の動植物へは関心が低くなっています。

本題まで遠回りしました。主題は「鶺鴒のヨシ原」上空を、上流部の鉄塔近くを新名神（第二名神）が通過すると、今暮らしている動植物が居なくなると云うことです。上流部の鉄塔は「オオタカの鉄塔」と呼ばれています。鶺鴒通信2012年2月号に、オオタカがコサギを捕らえた写真が掲載されています。可哀相だと思う人があるでしょうが、人も野生動物を捕らえて食べています。海から、川から魚を獲って食べています。道路が出来た後、採餌に来るかどうか。他所では無関係だったという調査例を知らないのです。鶺鴒では来なくなると思っています。

キツネを頂点とする今の動物群も壊れるに違いありません。キツネも居なくなるかもしれません。ポンプで揚水した結果、回復してきたヨシの生育面積は小さくなります。その結果、オオヨシキリの営巣面積が小さくなります。第一、水路が保証されるかどうか。保証されないと、ヨシ群落は壊滅です。壊滅すると河川公園にと姿を変え、管理されることになります。

3月になるとヒバリが子育てをし、4月初めからツバメが飛び、オオヨシキリが渡ってきて子育てをする。6月でもウグイスが盛んに鳴いています。鶺鴒で子育て、渡り鳥は「鶺鴒のヨシ原」を当てにして、目指して飛んできます。オオヨシキリの鳴き声は6月過ぎると聴こえなくなります。ツバメは8月の始めにヨシ原に集まり、集団で埒（ねぐら）とし、中旬過ぎると東南アジアへ飛んで行きます。大都市の近くに、夏は東南アジアと行き来する鳥たちが子育てをし、冬はシベリアからカモが渡ってくる、電車の音も、車の音も聞こえない広大な場所、生き物たちの楽園がある。私の最も大きなお勧めは3本の鉄塔と高圧線を除く青空。鉄塔は鶺鴒の大きさの中ではまだ許せる。

視野を遮る高速道路は、鶺鴒に不要。動植物と青空は、道路建設による関西経済の活性化にも劣らない大きな財産です。周辺の動植物を失った古代都市、古代文明が消滅したのは周知のことです。

・鵜殿の新川でオオタカがコサギを捕らえた。 撮影：津田真紀子氏 2011/12/04



・ダイサギがエサをとっています。
撮影：黒川史明氏 2011/11/04



・カワウがエサをとっています。
撮影：黒川史明氏 2012/01/31

2012年

各 位

鵜殿クラブ事務局

鵜殿クラブ会員 ご入会のご案内

拝啓 鵜殿クラブの活動にご参加、協力を頂きまして誠にありがとうございます。
1998年3月の創立から、今年度で15年目を迎えます。
これもひとえに、皆さまのおかげです。重ねて心よりお礼を申し上げます。
ご入会のお手続きの案内を申し上げます。

敬 具

記

1. ご入会のご連絡を事務局までお知らせください。
お名前、連絡先をメールかお電話でお知らせください。
2. 年会費をお納めください。どうぞよろしくお願ひします。
 - ・新年度 期間：2012年度 2012年4月1日～2013年3月31日
 - ・年会費 金額：4,000円（主に、毎月の会報の印刷、送料に使用します）
 - ・振込みをご利用ください。いずれかをお選びください。
 - ①ゆうちょ銀行間 ゆうちょ銀行 記号14010 番号31295571 うどのクラブ
 - ②ゆうちょ銀行へ、他金融機関からの振り込み
ゆうちょ銀行 【店名】四〇八（読み ヨンゼロハチ） 【店番】408
【預金種目】普通預金 【口座番号】31295571 うどのクラブ
 - ③銀行振り込み りそな銀行 野江支店 普通預金 6659828 うどのクラブ
 - ・締め切り：ご連絡から1か月以内にお振込みのほど、よろしくお願ひします。
3. 事務局 電 話：090-3991-1646、FAX：072-891-4751
〒569-0011大阪府高槻市道鵜町4-12-5 鵜殿ヨシ原研究所内
メール udono@ares.eonet.ne.jp（半角文字）
会長：長屋昭義 担当：谷岡寿和子

ひちりき 雅楽の箏箏のヨシを

守るために

雅楽に使われる楽器の箏箏は、平安時代の昔から大阪の淀川の鶯殿に自生する葦が、良いリードとして使われてきました。江戸時代に書かれた古楽書にも「鶯殿の葦が最高のものである」と書かれ、また明治時代からは宮内庁楽部で使用する箏箏の葦は、現在も鶯殿の葦のみを使用しています。

しかし、ここ数年、環境の変化により箏箏に使用できる葦が減少してきました。また、高速道路建設の話も浮上し、この高速道路が完成すると箏箏に使用できる葦は絶滅してしまうでしょう。

雅楽は、世界でも一番古くから伝えられている総合芸術として、現在世界中から見直され、ユネスコ無形文化遺産にも登録されております。また、ハワイ大学、ケルン大学、コロンビア大学などには雅楽を研究し演奏する団体も誕生し活発な演奏活動を展開しております。

雅楽の中で箏箏は、主旋律を受け持ち、その音色が雅楽の音色を決定付けます。鶯殿の葦から奏でられる箏箏の音色は、雅楽の音色として平安時代の昔から親しまれてきました。鶯殿の葦が絶滅することは、雅楽の音色の死を意味するでしょう。

私たち雅楽を愛し、演奏するものとして、平安時代から受け継がれてきた、箏箏のリードとして使用する最高品質の鶯殿の葦を私たちの世代で絶滅させてしまうことはできません。

箏箏に使用する最高の葦を守るために最善の措置をとられますようお願い致します。

2012年6月4日

(順不同)

久邇 邦昭	前神社本庁統理	/	豊 英秋	前宮内庁楽部首席楽長
安倍 季昌	前宮内庁楽部楽長	/	安齋 省吾	宮内庁楽部首席楽長
大窪 永夫	宮内庁楽部楽長	/	池邊 五郎	宮内庁楽部楽長
多 忠輝	宮内庁楽部楽長補	/	芝 祐靖	雅楽演奏家・日本芸術院会員
小野 功龍	天王寺楽所 雅亮会 楽頭 (大阪 四天王寺)			
笠置 侃一	南都楽所 楽頭 (奈良 春日大社)			

鶯殿のヨシ原(大阪府高槻市)を横断する新名神高速道路着工のニュースが4月2日に報道されました。鶯殿のヨシの危機です。雅楽の危機です。世界に誇る私達の文化と芸術を、今ここで絶えさせてはならないと思います。

長い歴史を引き継がれてきたこの文化を次の世代にも引き継いでいきたいと思ひます。

鶯殿のヨシを守るために皆様のご協力をお願いいたします。

連絡先 雅楽協議会 TEL 042-451-8898 Fax 042-451-8897

メール g a g a k u d a y o r i @ y a h o o . c o . j p

〒188-0013 東京都西東京市向台町 6-12-6 鈴木方

雅楽 箏篳の鶺殿のヨシの保全に関する声明

日本音楽史研究者有志

雅楽に使われる楽器の箏篳の蘆舌（リード）は、古来、大阪（摂津国）の淀川の鶺殿に自生する葦（よし）で作るものが、もっとも良いものとして使われてきました。江戸時代初期に禁裏出仕の累代の箏篳奏者である安倍季尚が著した『楽家録』の「蘆舌制法」にも「蘆舌の蘆（よし）は（中略）、古来摂津国鶺殿の地に生ずるところの蘆、これを用ゆ。（原漢文）」と明記されています。この伝統は現代にも受け継がれ、宮内庁式部職楽部をはじめ多くの箏篳演奏家が鶺殿の葦を使用しています。

しかし、ここ数年、環境の変化により箏篳に使用できる葦が減少してきました。また、当地の高速道路建設計画が実現してしまうと箏篳に使用できる葦は絶滅してしまうでしょう。

雅楽は、古（いにしえ）から伝えられている総合芸術として、現在世界中から見直され、ユネスコ無形文化遺産にも登録されております。また現代の日本においても多くの日本人が雅楽に癒されています。

雅楽の中で箏篳は、ひときわ個性的な音色を奏で、雅楽の音色を決定付けます。鶺殿の葦から奏でられる箏篳の音色は、雅楽に欠かせない音色として古来親しまれてきたものです。楽器の音色は素材に大きく左右されます。鶺殿の葦が絶滅することは、こうした雅楽の音色の死を意味することになります。

古来日本人が大切にしてきた雅楽の音色の危機を、日本音楽史を研究する者として見過ごすことはできません。ここに鶺殿の環境保全を強く要望します。

平成 24 年 6 月 5 日

日本音楽史研究者有志（五十音順）

内田順子（国立歴史民俗博物館准教授）

遠藤徹（東京学芸大学准教授、社団法人東洋音楽学会理事 呼びかけ人）

小塩さとみ（宮城教育大学教授、社団法人東洋音楽学会理事）

加藤富美子（東京学芸大学教授、社団法人東洋音楽学会理事）

金城厚（沖縄県立芸術大学音楽学部長、社団法人東洋音楽学会会長）

小島美子（国立歴史民俗博物館名誉教授）

薦田治子（武蔵野音楽大学教授）

近藤静乃（東京芸術大学音楽学部非常勤講師）

佐藤浩司（天理大学人間学部教授 天理大学雅楽部顧問）

澤田篤子（洗足学園音楽大学教授）

島添貴美子（富山大学准教授）

竹内有一（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター准教授）

寺内直子（神戸大学国際文化学研究科教授）

丹羽幸江（日本学術振興会特別研究員、昭和音楽大学非常勤講師）

野川美穂子（東京芸術大学講師）

南谷美保（四天王寺大学教授 人文社会学部学部長）